

関西 NEWS WEB

◀ 大阪の

民俗資料の収集・保存めぐる検討委員会が初 会合 奈良

11月18日 18時09分



奈良県立民俗博物館の資料が増えて、収蔵庫で保管できなくなっていることを受けて、県が今後の資料収集や保存のあり方を検討するために立ち上げた専門家委員会の初めての会合が18日、開かれました。

大和郡山市にある奈良県立民俗博物館は、大正から昭和にかけての生活用具や農具などおよそ4万5000点を収蔵していますが、資料が収蔵庫に入りきらず、適切な保存の環境が確保できないことからことし7月から休館して整理を続けています。

こうした中、県は、資料の収集と整理の新たな方針を策定するため専門家5人による検討委員会を立ち上げ、18日、初めての会合を開きました。

県によりますと18日の会合では、今後、資料を収集したり、手放したりする際の基準を明文化することをまず確認したということです。

会議のあと、委員長を務める国立民族学博物館の日高真吾教授は、「全国の多くの博物館が同様の問題を抱えているので、民俗資料をどう適切に保存するか奈良から全国に発信できるような方針にしていきたい」と話していました。

県は、来年度（令和7年度）中に新たな方針を策定し、資料の整理を進める計画です。